



001. 移住による実践的介入

2020年4月、埼玉県にある鳩山ニュータウン(以下、鳩山NT)に移住した。実際に生活を始めると、持ち家であることを活かした丁寧な庭仕事や、住民同士がわかるからこそ成立する物々交換、育てた野菜や趣味のクラフトを販売する活動や「住み開き」など、数多くの住民による主体的に活動する様子があった。開発から約50年が経つ今、計画的に開発されたニュータウンにおいて主体的な活動が根付く。そこで私も一人の住民として実践的な介入を試みた。するとその主体的で魅力的なその活動は、ヒトだけでなく、ニュータウンにあるモノやコトが同時にに関わりあうことで起こっていることがわかってきた。現地に移住することで見てくるニュータウンのヒト・コト・モノの生態系を手がかりに、自らも建築的介入とその運動によって連関を辿る。高齢化や空き家の増加など課題が山積している中で、郊外住宅地の住民とその連関に着目した都市再生の方法論を探求する。



003. 「運ぶ受付」プロジェクト (共同: 永田伊吹)

クラフトや野菜販売などを筆頭として数多くの住民による主体的な活動があり、その魅力を如何に施設を超えて伝えていくことができるかを考え始めた。そこで、ニュータウンに住む積極的な人達の知識や技術を、受け付け・運び・受け渡す、人や場を経由してモノ・コトの販売や交換が出来るプラットフォームを立ち上げた。その依り代となる移動式什器を設計・制作し、ニュータウン内を移動しながらクラフト・野菜・古本等を販売・交換し、ニュータウンの連関を辿り、繋ぐプロジェクトである。小さな建築が介入し、生活必需品ではない文化的な消費を支える。移動している際はモノやコトを伝達する役目を果たし、施設を知らない人々を引き込む。公共施設や住民宅の敷地内を定着点とし、小さな賑わいを発生させ活気をうむ。空き家や空き地、広い住宅の庭先、家の余剰空間の再利用を試みた実践的介入である。



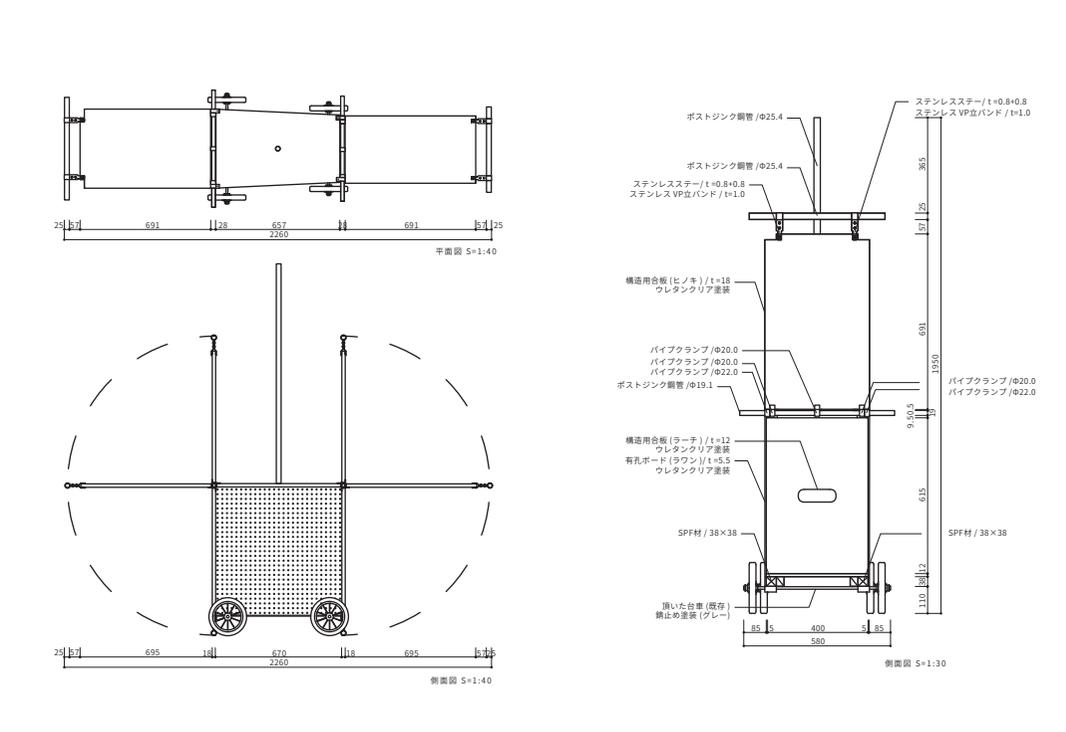
002. 鳩山ニュータウンのヒト・コト・モノの生態系

NTの中心にある住民による主体的な活動の拠点となっている公共施設で働いている。NT全体での住民活動を辿るべくフィールドワークを実施すると、住民の手で工夫されたゴミ捨て場や、庭仕事が使われていない公園や空き地にまで波及した偶発的な町の緑化等、外側にも様々な介入が見られた。ほとんどが低層住居専用地域の私的空間において、50年という時間的要因により、様々な使われ方の変化が起きており、主体的な介入によって生まれ始めたニュータウンのもう一つの「ランドスケープ」が確認できる。住民を見てみると、高齢者の中でもスキルを持った活動的な人が多く居る一方で、移動が困難な高齢者も居る。場・空間を見ると、野菜やクラフト販売など、住民の活動が集積する施設が活気づいている一方で、公園等、現状使われにくくなっている公的空間も散見される現状があった。

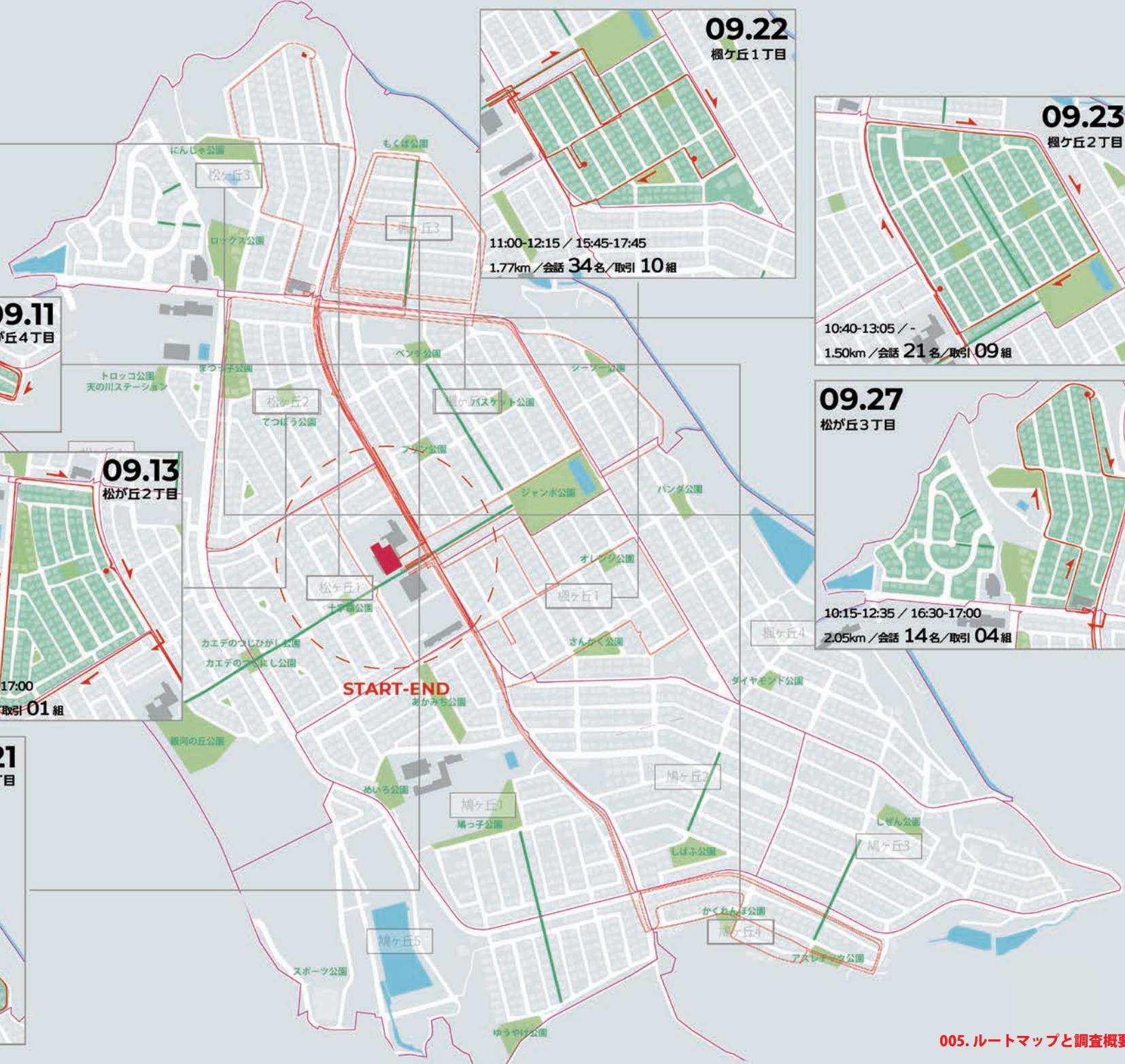


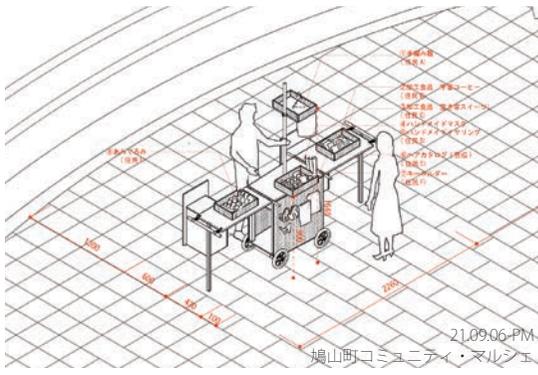
004. 鳩山ニュータウンで活動を行うための移動式什器の設計

什器は、「移動と定着」と「積載の自由度」を設計要件として、住民の方から不要になった台車を頂いたところから設計を開始した。埼玉県比企郡に広がる岩殿丘陵を切り拓いてできた土地性から急な勾配が多く、車輪を留める機構がそのまま天板として展開する設計とした。下部は有孔ボードを用いた自由度の高い積載面積を確保しつつ、上部は高さ方向に一本の単管を通し上下移動可能なクランプによって支える棚の機能を有することで自由度を確保する設計とした。設計物を実際に設計し自主制作するため、今回はオンラインによるCNC加工を使用し、什器の木部を出力する部分的活用を試みた。さらに詳細部にはホームセンター等で身近に手に入る金物を用いて、CNCカットによる精細な加工によって納まる設計とした。

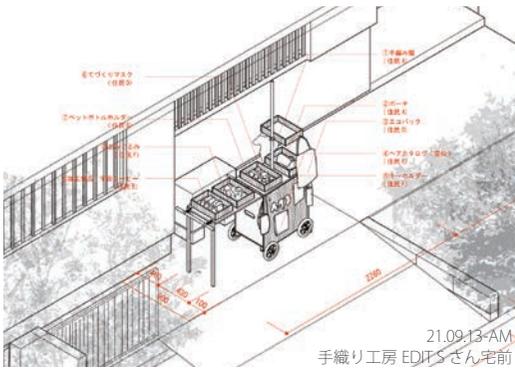


鳩山ニュータウンの「ランドスケープ」

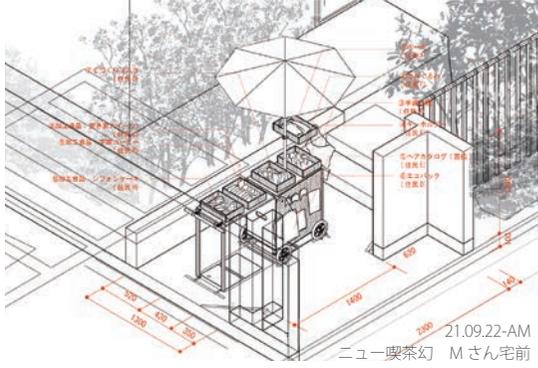




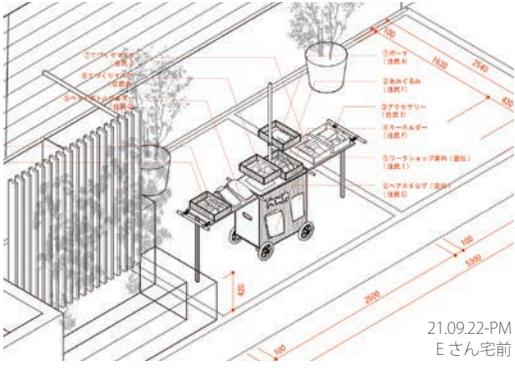
21.09.06-PM
鳩山町コミュニティ・マルシェ



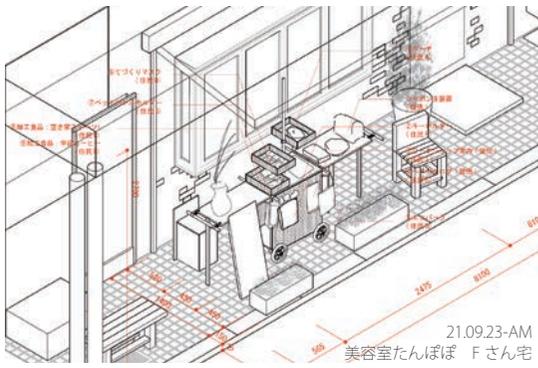
21.09.13-AM
手織り工房 EDIT'Sさん宅前



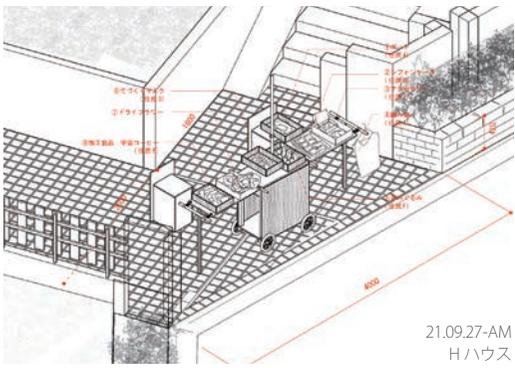
21.09.22-AM
ニュー喫茶幻 Mさん宅前



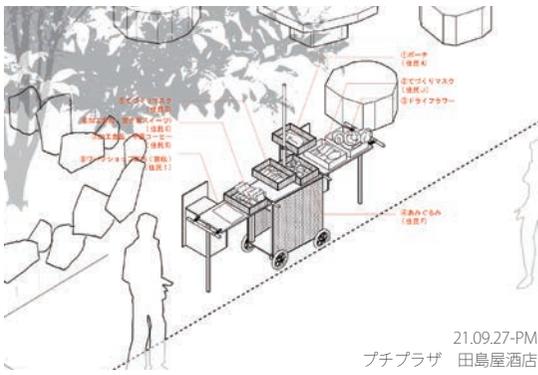
21.09.22-PM
Eさん宅前



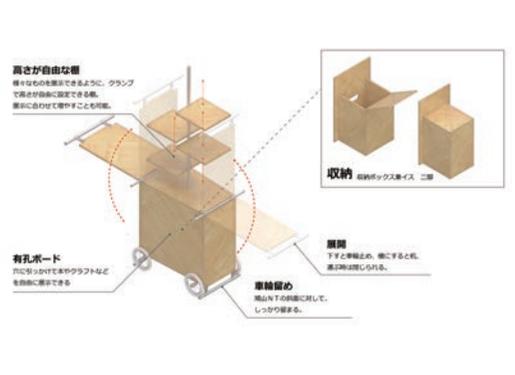
21.09.23-AM
美容室たんぽぽ Fさん宅



21.09.27-AM
Hハウス



21.09.27-PM
プチプラザ 田島屋酒店



006. 小さな建築と運動が連鎖を起こす

左記の通り、計7回活動を実施した。活動の中で、施設に制作物を出品する住民が現れたり、自宅前の庭で活動するイメージに繋がったという住民もあり、後述するイベントのきっかけとなった。また、地域の店舗から新たな家具の制作を依頼されるなど提案が連鎖した。既往研究*では、今ニュータウンの空間で、施設を柔らかく開いて生じる「マルシェ」の層と、住宅を柔らかく開いて生じる「住み開きの層」とで新たな動きがあるという。一方でこの「小さな建築と運動」はその間を繋ぐ媒介であると考えられる。①活動したいと考える隠れた住民層の発掘、②余剰空間の可視化と活用方法の提示、③住民活動を支援する・促進する機会の必要性という役割を示している。

※出典：平成29年度政策課題共同研究 研究報告書—持続可能な郊外住環境実現プロジェクト



活動を支援・促進する機会
活動を考える住民層の発掘
小さな建築による余剰空間の可視化

007. 実験的イベント：はとやまニュータウンマルシェ

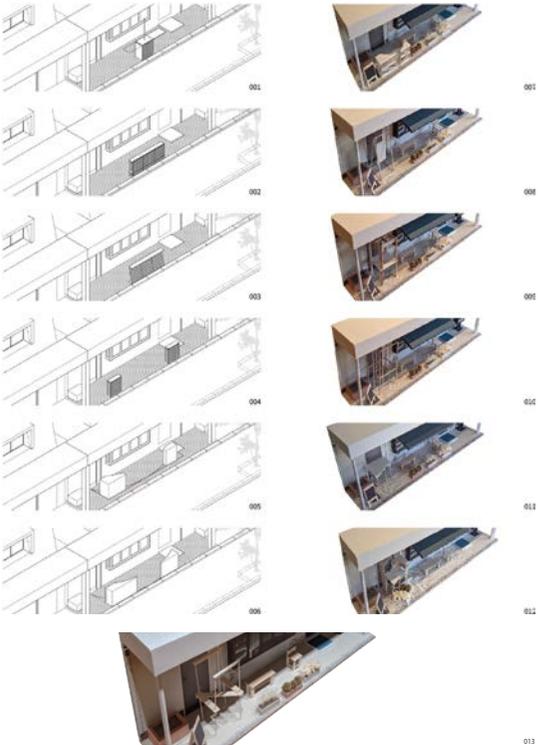
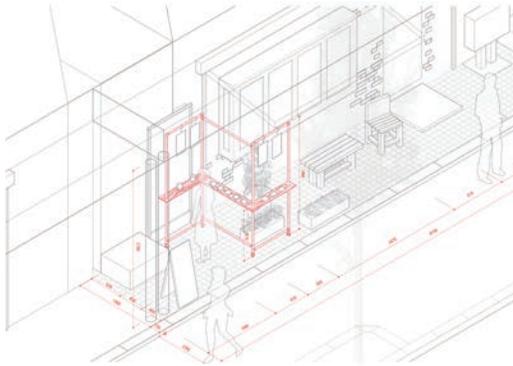
「実際に庭を活用したい」という声を受けて、住民の主体的な活動を実験的にイベントとして企画し、11月21日に実際に開催した。「運ぶ受付」で定着した、「美容室たんぽぽ」「手織り工房 EDIT」「プチプラザ・田島屋酒店」を起点に、住民の私有地を住民が主体となって場を開く。EDIT・佐藤さんは庭先にテーブルを出し、販売や演奏を行う場へと転用し、道に対して開く活用を行った。他店舗では、飲食販売や提供を行う等、独自の方法で地域へ開いていくことが出来た。イベントや仮設什器では、その時・場に介入・共有が可能だということがわかった。住民(ヒト)による介入や場・空間、知識などのモノ・コトの共有はそれぞれある。それらがより常時、創発しあう場とはどういう場だろうか。



007. 私的空間活用のための小さな建築(アーキテクチャ)を設計する

「美容室たんぽぽ」の店前を地域に開き、活用できる場に転換するための什器を設計する。「運ぶ受付」やイベントを経て、美容室の福岡さんが以前より考えていた店先活用が現実味を帯び、一時的であった空間活用を常時行える設えとすることを試みる。40年以上続く地域に根ざした美容室で商店通りに位置する。商店の周りを見渡すと、商店は通常ガラス張り通りに開いた造りになっているが、美容室たんぽぽは住宅の玄関と出窓がついた造りになっている。通りと美容院の間に外壁があり、什器を設置することで居場所を作ること考えた。場を活用した「運ぶ受付」の什器から機能を引き合いに出しつつ検討を開始した(001-6)。

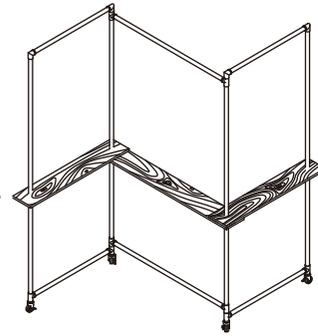




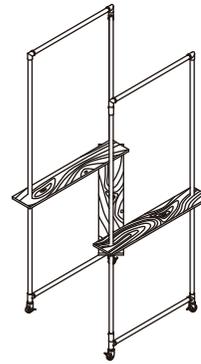
提案を行うと、棚としての機能や上下の「立体性」、「掲示・展示」、植栽や店前の「既存状態との関係性」を重視する必要があるということがわかった。次案から模型を使用し、依頼主と協働で考えられるようにし、フィードバックから吊る機能や圧迫感、周辺の馴染み考えた案(007-013)を検討し、提案を行った。そこで、007・012・013案が引き合いに出され、結果様々な使い方が検討できる013案が方向性として選ばれた。模型での検討によって、①目立つ(独立)よりは馴染む(共存)すること、②機能を充足するよりは付け足しながら自由に使うこと、③楽しませる工夫ができること、という店前活用における方針が得られた。制作の中で、隣町にて出会った元木工職人や木工所の繋がりが使われていない木材の活用や、安価でかつ住民にも組み立てられることを材料選定の方針とした。鉄パイプと木材を組み合わせたシンプルなものであり、既存の状態や植栽といった要素に馴染みつつ、様々な使い方によって通りに開く設えを可能とした。

008. 終わりに：交換とネットワーク

ヒトの主体的介入+コト・モノの「共有」=「交換」
 場：余剰空間/材：身近な流通(アップサイクル)/事：コンテンツ(技術・知識)
 「運ぶ受付」 移動式什器/美容室たんぽぽ 店前什器
 本制作は、超高齢化ニュータウンを対象に自ら移住・生活し、課題解決のための「小さな建築」の提案を連鎖的に行う運動である。「運ぶ受付」では、施設の中で閉じてしまいがちな公共施設を柔らかく開き、同時にニュータウン内の住宅・地域のコミュニティに開く。実際に庭を主体的に開く住民が現れたり、店舗から新たな家具の制作を依頼されるなど提案が連鎖する。本設計・制作・活動を通じ、人の主体的な介入とコト・モノの共有が創発的に起こる事象を改めて「交換」と呼びたい。小さな運関を辿り連鎖する制作による地域への介入が今後、空き家や余剰空間が増える住宅地の面的な再生に繋がる一つの手段になると考えている。



e. g. Type 2 (ジグザグ型)

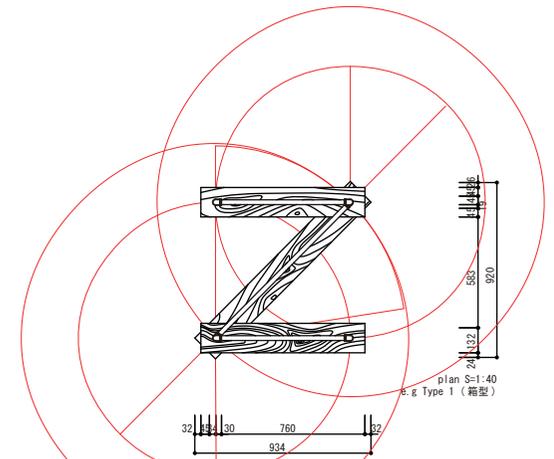


e. g. Type 1 (箱型)

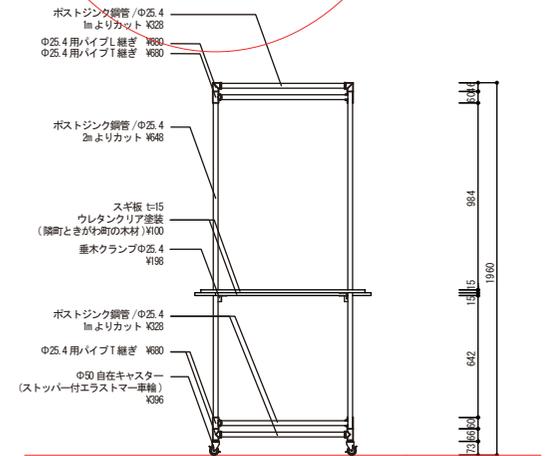


e. g. Type 3 (収納型)

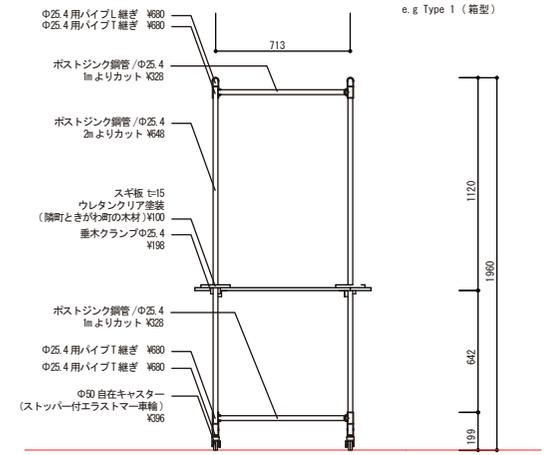
美容室たんぽぽ店前のための什器



plan S=1:40
e. g. Type 1 (箱型)



Side S=1:40
e. g. Type 1 (箱型)



Side S=1:40
e. g. Type 1 (箱型)

計 一脚 ¥14,600

